

新年号

酪農とちぎ



- 1 ページ 表紙
- 2 ページ 組合長挨拶
- 3 ページ 栃木県知事挨拶
- 4 ページ 青年部部长、女性会会长挨拶
- 5～6 ページ 東西南北（各支所）
- 7 ページ 部課だより（生乳受託課）
- 8 ページ 部課だより（業務部）
- 8 ページ 理事会だより、お知らせ、市場成績



MILK JAPAN



新年の挨拶

酪農とちぎ農業協同組合

代表理事組合長 白井 勉



新年明けましておめでとうござ
います。

組合員の皆様におかれまして
は、輝かしい新春をお迎えのこと
とお慶び申し上げます。

日頃より、幣組合事業に特段の
ご支援ご協力を賜り厚くお礼申し
上げます。

私は、昨年6月の組合長就任以
来、組合員の誰もが酪農を安心し
て持続的に経営できる組合作りの
ため、組合員目線に立ち対話を重

視し組合員中心の運営を基本とし
てきました。

最終年度となる第4期中期構想
の着実な実行に取り組むことで、
当面の最重要課題である「酪農生
産基盤の拡充」に向け、今後も組
合一丸となり対応していきたいと
思います。

昨年は、5月に半世紀続いた加
工原料乳生産者補給金等暫定措置
法が廃止され、新たに畜安法に再
編・統合され、10月には政省令が
交付されました。この法改正によ
り、制度における指定生乳生産者
団体の位置づけも大きく変わるこ
ととなり、本年4月施行後の生乳
流通の行方にも大きく影響し懸念
と不安が交錯しております。色々

な心配はありますが、法として施
行されますので、組合員が安心し
て酪農を続けることができるよう
組合としても全力で対応して参る
所存であります。

組合では、こうした酪農政策や
酪農乳業情勢の目まぐるしい変化
に的確かつ柔軟に対応しながら、
喫緊の課題でもある酪農生産基盤
の強化に向け、現在、第5期中期
構想の策定を進めており、本年4
月よりこの構想のもと、新たなス
タートを切ることとなります。新
たな中期構想では、引き続き「酪
農生産基盤の強化」を基本方針に
据えながら「酪農家の所得を向上
させる」「酪農家個々に最適な酪
農技術を提供する」「組合員と職
員がともに幸せを感じられる組織
を目指す」の三つの目標を実現す
べく進めて参ります。色々な課題
はありますが、一つ一つ着実に解
決し一步一步進むことで、中長期

を見通して組合員の皆様が将来に
希望が描けるような施策も積極的
に展開して参りますので、より一
層のご理解とご支援をお願い申し
上げます。

本年は、新畜安法改正元年であ
ります。組合員一人一人が組合に
結集し、本州一の規模を誇る酪農
組合である事を再認識し、「酪農
とちぎ農協」という我々の先達が
基盤を作ったこの素晴らしい組織
を活用して、私たちが等しく直面
する様々な課題に力強く立ち向
かっていく決意を新年にあたり新
たにしていくことをお願いしま
す。

年の始めにあたり、所信を述べ
るとともに、組合員、役員、関
係者の皆様とともに、一層の酪農
の発展と、本年が皆様にとり良い
年であることを祈念し新年のご挨拶
といたします。



新年知事挨拶

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様、あけましておめでとございます。

日本経済は、国内総生産が7期連続のプラス成長となり、有効求人倍率は全都道府県で1倍を上回るなど、緩やかな回復基調が続いておりますが、地方においては、賃金の伸び悩み等から、景気回復の実感は乏しいとの声も聞かれます。

こうした中、昨年は、「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な」とちぎ」の実現に向け、栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プ

ラン」の各プロジェクトを推進するとともに、地方創生の更なる深化に向けて、栃木県版まち・ひと・しごと創生総合戦略「とちぎ創生15戦略」に掲げた取組を積極的に展開して参りました。特に計画の中間年にあたる「15戦略」については、「県民所得」や「観光消費額」、「農産物輸出額」などの指標は順調に推移しているものの、「転出超過数」など人口動態

に関わる指標は改善が見られず、より実効性のある取組を進めていく必要があります。

このため、「元気発信プラン」や「15戦略」に基づく施策につきましましては、国の「人づくり革命」等とも呼応しながら、それぞれの進捗を踏まえより確かな成果に結びつくよう、更に取組を加速させて参ります。特に、UIJターンの推進や女性が働きやすい職場環

境の整備、関西圏等における観光や企業誘致に関する情報の発信力強化などに取り組みむことにより、「とちぎ創生」の実現を図るとともに、市町との協働による水害対応タイムラインの作成や妊娠から出産・子育て期まで切れ目なく支援できる仕組みづくりなど、「安全・安心なとちぎづくり」を推進して参ります。

また、農業分野では、米から露地野菜を中心とした土地利用型園芸への生産転換を進める園芸大園とちぎづくり、農産物の輸出の拡大、ICTやロボット技術を活用したスマート農業の普及などに積極的に取り組み、収益性の向上を図ることで、本県農業を成長産業へと発展させて参ります。

特に畜産・酪農につきましては、地域全体で収益性を向上させる取組（畜産クラスター）や「働き方改革」の趣旨を踏まえた酪農家の労働負担を軽減させる取組（楽酪事業）、水田を有効活用した自給飼料の増産と利用の促進、さらには家畜伝染病の発生防止対策の徹底により、畜産経営の体質強化を

推進して参ります。

春には、JRグループと協働で取り組む大型観光キャンペーン「本物の出会い 栃木」デスティネーションキャンペーン（DC）が、本番を迎えます。生産量全国第2位の生乳や牛肉、豚肉などの本県産畜産物を国内外から訪れる多くのお客様に満喫していただき、また栃木を訪れたいと思っただけのよう、心のこもったおもてなし”でお迎えして参りたいと考えております。

社会が大きく変化する中、時代の潮流を的確にとらえ、本県の強みを十分に生かしながら、すべての分野で「選ばれるとちぎ」の実現を目指して、全身全霊で取り組んで参りますので、皆様の一層の御理解と御支援をお願いいたします。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、本年が酪農とちぎ農業協同組合の皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます、新年のごあいさついたします。



新年の挨拶

青年部部長 山本 訓



新年明けましておめでとうございます。平成30年の初春を迎える事が出来、大変うれしく思います。日頃より部員のみなさまには青年部活動並びに各種事業に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。また組合役員及び組合員の皆様におかれましては、青年部に対する温かいご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げますとともに、本年もご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

昨年乳牛の減少による市場価格の高騰や、全国的な生産基盤の縮小など酪農にとって厳しい一年だったと思います。その他にもTPPや北朝鮮問題など心理的にも不安を感じる年でした。我々青年部員は、酪農業を基礎とし活動

内容を充実させながら、心豊かに活動をしていきたいと思えます。

7月の全国酪農青年女性酪農発表大会では、栃酪の前田さんが関東甲信越の代表として意見体験発表をされました。とても聴きやすく楽しい内容でした。またその会場で全国の酪農家と交流し大変楽しい時間を過ごさせていただきました。今年も3月に新潟で関東甲信発表大会、7月には広島で全国大会が開催されますので、部員の皆様におかれましては、ぜひ積極的にご参加していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

11月には保育園や小学校において搾乳体験を県内3箇所（那須烏山市、矢板市、那須塩原市）行いました。各支部搾乳体験の他、バターづくりや仔牛とのふれあいなど趣向を凝らした企画もありました。牛に触れた小さな子供たちが目を輝かせている姿に、「この体験をやってよかった」「またやろう」と私たちもまた、子供たちから元気を分けて貰ったように思えます。この活動を通し、より消費者に理解を深めていただきながら、さらに安心安全な生乳生産に努めていきたいと思います。

皆様方の青年部への益々のご理解ご協力をお願いいたします。新年のご挨拶といたします。

新年の挨拶

女性会会長 興野 礼子



4月8日酪農まつりには、焼きそば500食を販売しました。6月4日父の日に牛乳を贈ろうキャンペーンにはグッズの配布と牛乳の試飲、6月17日県民の日では県庁前広場に於いて栃木県産牛乳の試飲650本、7月13日から15日北海道にて全国酪農発表大会、10月14日栃木県酪農フェアでの牛乳入り豚汁の販売と意欲的な活動を続けております。

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。女性会会員の皆様、組合役員の皆様には日頃より女性会の活動におきまして格別のご支援ご協力を賜り誠にありがとうございます。

女性の活動といたしまして12月6日ホテルエピナール那須に於いて全体研修会「とっておきの哺育技術」と題し、全酪連購買生産指導部酪農技術研究所研究員猪内勝利氏に御講演頂きました。酪農

技術研究所の調査中のデータより、子牛の対応哺育技術を学び、大変有意義な1日でした。また、

また、昨年より、栃木県農業振興計画が発足されました。農業の将来像として、省力化技術の導入や、耕畜連携による大規模な畜産経営として搾乳ロボットなどの自動化技術の導入、水田を利用した稲WCSなどの生産拡大により粗飼料自給率100%を実現など高いビジョンが組み込まれていきます。高齢化社会の到来ではありませんが、私たち酪農家は一生現役で頑張りたいと思います。

最後になりましたが本年も皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



那須高原支所

支所活動推進協議会講演会開催

12月8日、支所活動推進協議会（藤田一義会長）による講演会を組合員及び関係者含めて70名の参加者を得て、浜中町農業協同組合理事兼参事 高橋勇先生を招き「地域の生き残りをかけた浜中町農協の挑戦」と題して講演をいただきました。

浜中町は釧路と根室の中間に位置しており人口6100人に対して乳牛飼養頭数は2万2500頭とまさに酪農王国であり、夏の冷涼な気候も相まって作物は牧草しか取れず、酪農専業地帯となっており、地域を存続させるためには酪農を継続しながら草地を守っていかねばいけないという側面を持ち合わせています。

JA浜中町の主な取り組みとして、分析センターの設立、乳牛ト

レサビリティの確立、コントラクター事業、新規就農者の受け入れ等について説明頂きました。特に新規就農者の受け入れについては、農協や町を中心として、関係機関・団体が協力して、新規就農を希望する方々を総合的にバックアップする支援システムが作られています。昭和58年に開始され平成3年には就農者研修牧場を設立し、現在までに41件の受け入れ実績があります。



地域全体で生き残るために様々な改革を進めてきたJA浜中町は「戦略なき農協は生き残れない」と考え、

- 農協も中小企業
 - 未来から戦略を考える
 - 持続可能性への対応
 - ダメもとでやってみよう！
- という、これらの信念のもとに改革を進めてきました。講演の中で高橋氏は、「すべての事が組合員、地域のためになるか」で判断し、「しっかりと明るいビジョンを示して、やらなければならない事もしっかり語る事」が何事にも大切であると語り、このことは公聴していた職員一人一人も真に受け止め、明るい未来のために組合として「何ができるか」ということを考えさせられる講演会となりました。



宇都宮支所

各青年部で搾乳体験を実施

酪農理解醸成活動として、各青年部に於いて、関東生乳販連所有の搾乳体験車により行いました。

まず、塩谷支部では11月16日に、矢板市のこどもの森こころ保育園で実施し、年長さん43名が体験されました。搾乳補助は、宇河今市支部員の協力を得ながら8名の青年部員が対応し、園児たちは大喜びで牛に触れ、乳搾りを楽しみました。同保育園はここ数年実施しており、見学していた年中さん以下の園児からは、「早く大きくなって乳搾りしてみたい」との声が沢山聞こえてきました。

次に、那須南支部では11月22日に、青年部員8名補助のもと、那須烏山市立七合小学校で実施し、4年生28名が体験されました。

当日は、初めて牛に触れる子供も多く、ドキドキしながら興味津々に搾っていた光景も見られました。搾乳体験終了後は、バター作り体験が行われました。最初に、



生クリームからバターが作れることを説明すると、驚きの表情を浮かべていました。実際のバター作りでは悪戦苦闘(?)しながらも、十分に満喫できていました。

以上、青年部員皆様の活動により、子供たちに向け酪農の理解が深められた事と思います。



七合小学校4年生による搾乳体験

各女性会で研修会を開催

先ず、塩谷支部では11月29日に、宇都宮支所に於いて花の寄せ植えを実施しました。当日は、高根沢

町の花屋「旬はなゆう」担当者が説明し、女性会員8名が自由に制作しました。出来上がりは、材料が同じでも色の違いや植え方により、個々の感性を活かした作品になり、とても素敵に出来たと参加者は喜んでいました。クリスマスやお正月には、自慢の寄せ植え作品が家庭を明るく、そして和ませてくれることでしょう。

次に、宇河今市支部では11月30日に、宇都宮市の「ゆずの木」に於いて、前年に引き続き森久保葉



“花”と“華”

品(株)を通し、ラレマンドバイオテック(株)の深沢博之氏を講師に、乳房炎対策と仔牛の管理について8名が受講しました。講演では、搾乳手順や冬を乗り切る育成方法等について説明があり、改めて飼養管理の大切さを学びました。

以上、寄せ植えをはじめ経営向上に繋がる研修を通し、有意義な一日になった事と思います。

県南支所

全体交流会開催

12月15日、支所活動推進協議会(大瀧信夫会長)主催の全体交流会が県南支所において開催され、組合員や家族・従業員及び各関係業者の方々等、約110名が親睦を深められました。天候にも恵まれ、参加者の準備協力も得ながら、無事開催する事が出来ました。

まず、松山副組合長から酪農情勢について報告を頂き、その後恒例のバーベキューとビンゴゲームで、大いに盛り上がりました。会場内は笑いと活気に満ちあふれ、

参加された皆さんは、明日への活力に繋がる有意義なひとときとなりました。



松山副組合長より挨拶



バーベキューおいしいー!!



部課だより

生乳受託課

平成29年11月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し98.3%（1万8691t）と、7月以降5ヶ月連続し前年を下回る状況です。各支所の受入乳量は、那須高原支所1万2294t（前年比99.6%）、宇都宮支所2344t（同97.0%）、県南支所4053t（同95.3%）となり、出荷者数は、前年同月より17戸減の425戸（内、学校は1校）でした。

11月度の組合平均乳質は、脂肪率3.88%（前年差▲0.02%）、無脂固形分率8.83%（同▲0.02%）、体細胞数20.84万（同+0.15万）と前年同月と同等の成績となりました。尚、11月迄の不合格件数は653件と前年同期659件とほぼ同数となっております。関東生乳販連の11月総受託乳量は8万5830t（前年比98.0%）となり、本組合同様5ヶ月連続し前年を下回る状況となりました。

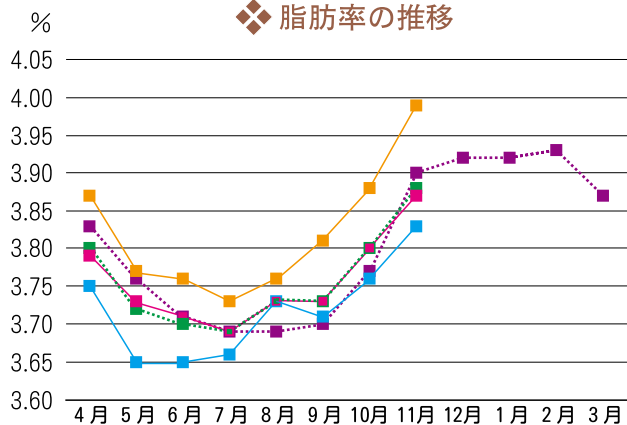
また用途別の販売数量は、生乳生産量減少の中、飲用牛乳向けが前年並みで推移したことから、加工向け・生クリーム向けが大きく前年を下回りました。

平成29年度 関東生乳販連用途別販売数量（単位：kg・%）

用途	11月期実績	前年同期実績	前年比	11月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	68,249,400	68,573,828	99.5	560,246,068	561,973,069	99.7
(うち学校向け)	12,103,853	12,382,505	97.7	80,764,383	80,882,111	99.9
はっ酵乳向け	12,135,937	12,534,807	96.8	105,307,698	103,719,144	101.5
特定乳製品向け	3,930,842	4,703,596	83.6	47,722,692	53,842,527	88.6
(うち委託加工向け)	0	0	-	0	0	-
生クリーム向け	1,450,852	1,674,225	86.7	12,199,785	12,927,148	94.4
チーズ向け	63,086	66,261	95.2	496,769	506,762	98.0
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	85,830,117	87,552,717	98.0	725,973,012	732,968,650	99.0
加工比率	4.58	5.37	-	6.57	7.35	-

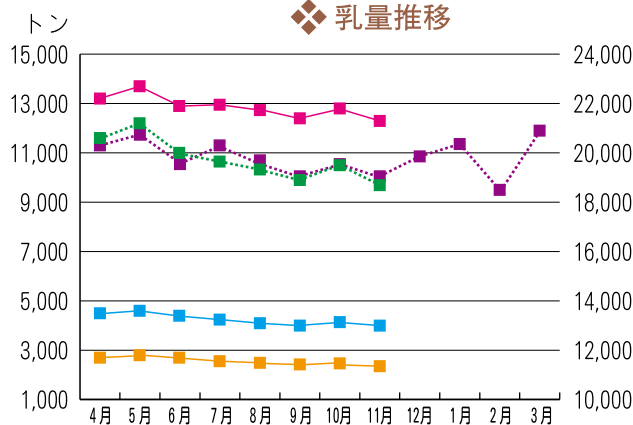
11月の全国の生産量は、北海道が前年比102.4%と3ヶ月連続し前年を上回る中、都府県は97.8%と26ヶ月連続し前年を下回りましたが、北海道の順調な生産回復を受け全国の生産量は100.3%と16ヶ月振りに前年を上回りました。尚、平成29年11月の生産量・乳質、関東生乳販連の用途別販売数量は別表のとおりとなっております。

◆ 脂肪率の推移

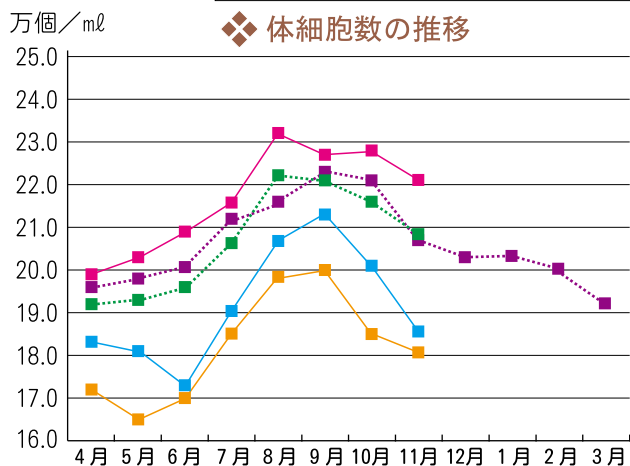


■ 那須高原 ■ 宇都宮 ■ 県南 ■ 平成29年度 ■ 平成28年度

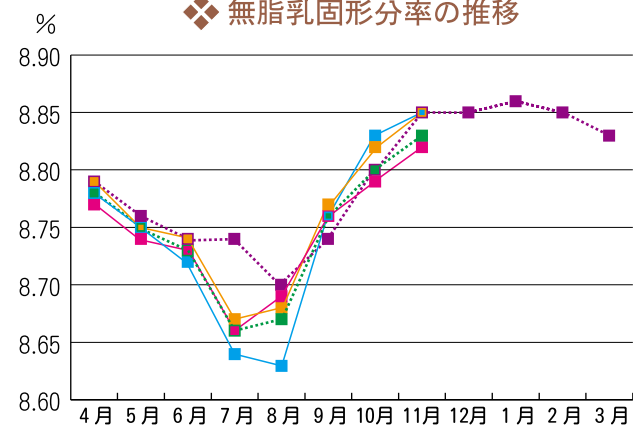
◆ 乳量推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



業務部

●『女性会全体研修会』開催

12月6日、ホテルエピナル那須に於いて、酪農とちぎ女性会(興野礼子会長) 116名の参加のもと、全体研修会が盛会に開催されました。



講師：全酪連 猪内勝利 氏

今回は、全酪連購買生産指導酪農技術研究所の猪内勝利氏を講師にお招きし、「とっておきの哺育技術!!」と題し、講演を頂きました。講演は、今までの経験を活かした若齢牛哺育の講演となりました。子牛は生まれて7日間の管理状況によりその後の成長にも影響があります。健康で生まれた牛と難産で生まれた牛の体温低下の違いや、生まれたての子牛は体温の維持管理が重要となるため産後すぐに体を乾かし保温することが大切など、日頃から哺育に携わることとの多い女性会会員の方々は興味深く聞き入っておられました。初乳給与については、衛生状況に注意し初乳を与え、哺乳姿勢にも気を配り子牛が満足する哺乳時



興野会長より挨拶

間を確保する等、写真やグラフで分かりやすく説明を頂き、今後の哺育作業、更には安定経営につながる大変有意義な講演でありました。

講演会終了後は、評判の美味しいランチを取りながらの会食となり、会員同士で和やかなひと時を過ごされました。最後に今回初の試みで、各支部の活動報告を各支部長にしていたいただきました。他の支部活動が各支部の活動の参考になればとの思いで実現しました。活動報告終了後、散会となりました。

理事会だより

11月度理事会 (11月30日)

報告事項

(一) 組合員の加入について
(二) 業務経過報告について

- (一) 10月度事業実績について
 - (二) 緊急酪農生産基盤強化対策(案)について
 - (三) 平成29年度配合飼料特別措置(案)について
 - (四) 平成29年度組合購買利用推進女性研修会の実施について(案)
 - (五) 平成30年乳代送金日の設定及び対応について
 - (六) 年末手当の支給について
 - (七) 固定資産の取得について(追認)
 - (八) 関東生乳販連との建物賃貸借契約について
- お知らせ**
《組合員加入のご案内》
酪農とちぎは、組合員の皆様の方と出資金によって運営されています。しかし、年々組合員数が減少しております。今年皆様のご協力により増加に転じますよう、皆様のご加入をお待ち申し上げます。一口一〇〇〇円の出資から加入が出来ますので、酪農に従事されているもの、組合に加入されていないご家族の方等のご加入をぜひ検討いただけますようお願い申し上げます。

11月度 ホクレン初妊牛市場成績 (単位：千円(税込))

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
根室	11月2日	324	255	78.7%	798	27	20	974
十勝	11月8日	538	416	77.3%	881	89	57	1,038
豊富	11月16日	298	181	60.7%	798	12	7	917
釧路	11月22日	296	205	69.3%	844	16	10	921
根室	11月23日	418	307	73.4%	841	39	27	961
北見	11月27日	445	248	55.7%	794	23	9	946
十勝	11月28日	689	458	66.5%	848	106	83	997
合計		3,008	2,070	68.8%	829	312	213	965
前月		2,428	1,802	74.2%	847	212	179	1,018
前年同月		2,855	2,489	87.2%	846	289	272	1,019

初妊牛の今後の動向は3~5月分産のF1腹が中心となります。11月はやや弱~弱含みの値動きを見せた市場がありましたが、道内酪農家の生産意欲が旺盛なこと、メガ・キガファームの大型導入が順次計画されている事、春産み中心となり需要が高まるシーズンである事から、1月はやや強以上の値動きになるものと思われます。雌雄判別精液液腹は特に引き合いが強く、場合によってはF1腹以上の価格となることもあります。導入を希望される方は腹条件・分娩月によって手配に時間がかかることも予想されますので、十分余裕をもってのお申込みをよろしくお願い申し上げます。

11月度 県内家畜市場成績 (単位：円(税込))

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
	F1雄	130	63	344,520	162,000	273,572	21,403
	F1雌	112	59	236,520	51,740	178,065	9,978
館林(11/27)	ホルス雄	0	0	0	0	0	0
	F1雄	6	100	363,960	109,080	284,580	▲21,924
	F1雌	11	96	279,720	221,400	259,298	26,018

今回の初生牛取引価格は前回から比較し、那須では横ばい~やや強、館林ではF1雄がやや弱、F1雌がやや強で推移しています。那須市場においては月頭の価格と比較すると、10~30千円ほどの上昇となりました。しかしながら年度当初と比較すると、特にF1において80千円下落しているため、全体としては右肩下がりとなりました。今後も値動きをしながら、全体では同様の動きで推移するものと思われます。

